

18年度予算

市民サービス切り下げ 公共料金一斉値上げ

日本共産党 予算の組み替えを提案

宇治市議会3月定例会(2月20日〜3月29日)の最終本会議では、市民サービス切り下げ、公共料金一斉値上げを内容とする一般会計当初予算案について、民進、公明、無党派の13人が賛成。共産、自民(1人退席)、維新の13人が反対。可否同数での議長採決では、議長(自民)が賛成して可決となりました。党議員団は、当初予算を組み替え、市民いじめの大改悪のストップを提案しましたが、共産を除く全ての議員が反対しました。

不安をあまり

市民サービス切り捨て

2018年度予算は、市民サービスを大幅に削減し、

しかし、「財政見直し」と

18年度予算を比べると、市民負担を引き上げる内容です。市長は市民サービス削減の理由として、今後4年間に85億円の財政の収支不足が生じる「財政見直し」を示して、市民の不安をあ

福祉施策やイベント廃止が相次ぐ

子育て、教育の分野では、民間保育所等運営補助金が、不足が生じる。2500万円に約4600万円も削減され、ある法人では約610万円も削減さ

市民サービス切り下げをやめる財源はある

共産党 当初予算組み替え動議を提案

党議員団は、市民サービス切り下げ、公共料金一斉値上げをもとに戻す一般会計予算の組み替え動議を提案しました。

この組み替え動議は、歳出で、太閤堤関連予算を削減し、市民サービス切り下げをもとに戻すことや、歳入では、公共料金一斉値上げの取りやめ、昨年度の市税増収による予算未計上の黒字額を充当することなどを内容とするものです。

特別の財源対策なしに、予算を組むことができることが明らかになりましたが、この組み替え案に自民・公明・民進・維新などが反対し、否決となりました。

市議団提案の組み替え動議の概要

Table with 2 columns: Category (歳入, 歳出), Amount (7.1億円, △0.7億円, 6.4億円, 0円)

2千万円多くなっており、多額の収支不足が生じるとした「財政見直し」は、すでに見直し違いとなっている。収支不足を理由に市民への負担を押し付けることは誤りです。一方、太閤堤跡の歴史公園建設は総額88億円の大型事業であり、これこそ、将来の財政の負担となります。不急の大型事業こそ見直すべきです。植物公園のタペストリーも廃止されます。地域経済の分野では、企業立地促進助成事業費は17年度と比べ10分の1となり、商店街振興にあてる中小企業振興対策事業費も160万円の減額となっています。茶業振興などの農業予算も軒並み減額となり、農林祭りへの負担金も廃止されます。

公共料金一斉値上げ

コミセンの使用料は25%、自転車駐輪場は平均29.6%、斎場使用料も全体で25%の値上げがおこなわれます。文化センター、産業会館、ゆめりあ宇治、生涯学習センター、黄檗公園、西宇治公園、学校の放課後開放事業、アクトパル宇治、源氏物語ミュージアムなど公共施設の利用料、使用料が一斉値上げとなります。同時に、介護保険料や保育料、廃棄物処理の手数料などの公共料金も引き上げられます。

憲法9条改憲ストップへ市民のみなさんとの共同を広げます



日本共産党 宇治市会議員団 だより 2018.5.6 TEL 0774-22-3141 (市役所) (内線2817 議員団室) FAX 0774-24-7884

